



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	第11回観光創造フォーラム：プログラム・主旨・関連資料
Author(s)	山村，高淑
Description	北海道大学観光学高等研究センター『第11 回観光創造フォーラム』（第2 回TOYAKO 観光創造フォーラム）配布資料．2011 年6 月19 日（日）10:00～12:00．於洞爺湖文化センター（北海道洞爺湖町）．（主催）北海道大学観光学高等研究センター/TOYAKO マンガ・アニメフェスタ事業推進委員会/（社）洞爺湖温泉観光協会．（後援）洞爺湖町/洞爺湖町商工会/洞爺青年会議所
Relation	北海道大学観光学高等研究センター『第11 回観光創造フォーラム』（第2回TOYAKO 観光創造フォーラム）配布資料．2011 年6 月19 日（日）10:00～12:00．於洞爺湖文化センター（北海道洞爺湖町）．
Issue Date	2011-06-19
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45824
Type	other
File Information	11thCATS_Forum.pdf



2011 年 6 月 19 日（日）10:00～正午 於洞爺湖文化センター
北海道大学観光学高等研究センター『第 11 回観光創造フォーラム』
（第 2 回 TOYAKO 観光創造フォーラム）

観光地「洞爺湖」は復活するのか？ ～多様な資源の活かし方：その可能性と課題～

【共催】北海道大学観光学高等研究センター／TOYAKO マンガ・アニメフェスタ事業推進
委員会／（社）洞爺湖温泉観光協会
【後援】洞爺湖町／洞爺湖町商工会／洞爺青年会議所

◆プログラム◆

《第一部》

1. ご挨拶・趣旨説明

山村高淑（北海道大学観光学高等研究センター准教授）

2. 基調講演『洞爺湖観光復活の鍵はどこにあるか』

～「Tohji & Okami プロジェクト構想」の提案～

大島直行（伊達市噴火湾文化研究所所長）

3. 基調講演『洞爺湖の生物多様性保全こそが地域の活力に！』

吉田剛司（酪農学園大学環境システム学部准教授）

休憩

《第二部》

4. パネルディスカッション

『地域資源活用戦略の新発想～洞爺湖だからできること』

大島直行（伊達市噴火湾文化研究所所長）

吉田剛司（酪農学園大学環境システム学部准教授）

井門隆夫（（株）井門観光研究所代表取締役、関西国際大学准教授）

北島良人（TOYAKO マンガ・アニメフェスタ事業推進委員会 委員長）

大西英生（（社）洞爺湖温泉観光協会 副会長）

兼村憲三（洞爺湖町役場）

コーディネータ：山村高淑（北海道大学観光学高等研究センター准教授）

■本フォーラムの趣旨

本フォーラムの目的は、現在の日本の観光地が抱える課題を踏まえたうえで、洞爺湖の持つ自然・文化資源の豊かさを活かした観光振興・交流促進の可能性について議論することにあります。

そこで第一部では、洞爺湖に縁の深い、分野の異なる専門家お二人（大島先生、吉田先生）より、それぞれのご専門分野から、洞爺湖の抱える課題を踏まえつつ、多様な地域資源を活かした交流促進の可能性について基調講演をいただきます。洞爺湖の持つ資源の多様性とそれらの価値についてご紹介いただき、多様な自然・文化資源を結び付けることで、今後、国際観光地として洞爺湖に何ができるのか、その可能性についてご講演いただきます。様々な分野の専門家が洞爺湖に関わっていることを皆様知っていただき、洞爺湖の魅力を再認識していただく機会になれば幸いです。

続く第二部では、日本の観光地が共通して抱える課題に着目し、今後、豊かな地域資源を活用していくうえでの根本的課題、特に「人的資源」の問題について、パネルディスカッションを行います。

実は現在、洞爺湖のみならず、日本の観光地の多くが、以下のような共通する課題を抱えています。

- ① **予算の縮小**→多額の投資は不可能。新規開発ではなく、既存資源をうまく活用することで、高付加価値を付けていく必要性が高まる。多様な資源を組み合わせる相乗効果を出すこと。ストーリーによる有機的連携。広域連携による補完関係の構築。住民参加と地域内関係→「金」から「人」（やる気と知恵）へのシフトという課題。
- ② **少子高齢化・過疎化**→特に若年世代の人口減少。世代交代の問題。交流人口増に期待が高まる。Iターン、Uターン。外部人材の有効活用。→世代交代・継承の課題。
- ③ **観光市場の細分化（目的地・趣味・嗜好の多様化）**→集中から分散へ。歴史的な集客ピーク時に比べ入込は減少。新たな取り組みとしてのマンガ・アニメフェスタ。
- ④ **震災**→復旧・復興、風評被害の克服。

パネルディスカッションでは、特に①②に的を絞って議論を進めていきたいと思えます（③については昨年の TOYAKO 観光創造フォーラムを参照）。なぜなら、③も④も、①②という環境の中で取り組まなければならない課題であり、①②こそが、最終的に地域で物事を動かす主体に関する課題だからです。右肩上がりではない定常型社会においては、結局「人」が資源であるという考えが極めて重要になります。特に、つきつめると「人」と「人」の交流である「観光」においては、その意味は一層重いものとなります。

パネルディスカッションでは、専門家の方々、地域の方々双方にご登壇いただきます。より本質に迫る議論が展開できればと思います。

昨年の TOYAKO 観光創造フォーラム「サブカルチャーとツーリズム、そして次世代の地域振興」に引き続き、洞爺湖にてフォーラムを開催できますことを心から嬉しく思います。こうした機会を通して、地域の皆さん、来訪者の皆さんとともに、観光振興・交流促進の持つ本質的意味を考え、次世代の観光交流の可能性を検討していくことができれば幸甚です。

山村高淑（北海道大学観光学高等研究センター・准教授）

※ 昨年洞爺湖で開催された「第9回観光創造フォーラム」の詳細は以下の URL でご覧いただけます。

<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/43205>

講師 略歴（敬称略）

大島 直行（おおしま なおゆき）

札幌医科大学客員教授、伊達市噴火湾文化研究所所長。医学博士。

昭和 25 年、釧路管内標茶町出身。東洋大学文学部史学科卒業。昭和 49 年、札幌医科大学研究生となり、三橋公平先生、峰山巖先生のもとで人類学、解剖学を学ぶ。昭和 53 年、札幌医科大学助手となり、解剖学教室教授の三橋公平先生、百々幸雄先生のもとで解剖学、人類学・考古学の研究を行なう。平成 7 年、長年研究フィールドとしてきた伊達市の職員となり、史跡北黄金貝塚の整備や遺跡調査などの文化財保護行政を手がける一方、芸術や学術分野まで裾野を広げた幅広い総合文化行政を標榜し「文化を行かした町づくり」に取り組む。教育委員会主幹、文化課長、カルチャーセンター館長、文化財課長を経て平成 17 年、全国に先駆けて設立された市立の「伊達市噴火湾文化研究所」の初代所長となる。平成 23 年 1 月、札幌医科大学客員教授に就任。平成 23 年 3 月、伊達市退職。引き続き「噴火湾文化研究所所長」（特別職）に就任。平成 23 年 4 月より室蘭工業大学および札幌大学の非常勤講師を務める。

吉田 剛司（よしだ つよし）

酪農学園大学准教授（環境システム学部 生命環境学科 野生動物保護管理学的研究室）。博士（農学）。

大阪府羽曳野市出身。University of Wisconsin-Stevens Point 卒業。University of Illinois at Urbana-Champaign 修了。京都府立大学大学院農学研究科博士課程修了、博士（農学）。日本学術振興会特別研究員、財団法人自然環境研究センター研究員を経て現職。

専門は野生動物保護管理学、森林管理学。現在は、大型哺乳類の生息地保全や行動に関する研究、外来生物対策に関する研究に従事。

井門 隆夫（いかど たかお）

㈱井門観光研究所代表取締役、関西国際大学准教授。

1985 年上智大学社会学科卒業、JTB に入社。国内旅行政策・商品企画・CS アンケート設計等を担当。小樽商科大学共同研究員、株式会社サービスクオリティ研究所代表取締役を経て、2011 年より現職。日本経済新聞やトラベルニュースなどで定期的にコラム執筆を手がける一方、All About の「旅館」サイトのガイドも務め、日本全国数多くの宿の中からおすすめの宿を紹介している。2007 年には経済産業省「地域中小企業サポーター」として委嘱を受ける。マスコミに登場する機会も多く、精力的に日本中を飛び回っている。

洞爺湖町関連資料

洞爺湖町の概要

□位置及び面積

面積		180.54km ²		
位置	経度(東経)	極東	140°	58' 19"
		極西	140°	43' 32"
	緯度(西緯)	極北	42°	41' 58"
		極南	42°	31' 13"
広域	東 西	20.2km		
	南 北	19.9km		

(資料: 国土地理院)

□地目別土地面積(23年4月1日現在)

区分	合計	田	畑	宅地	山林	牧場	原野	雑種他	その他
面積(km ²)	180.54	2.11	23.54	4.23	46.82	3.70	26.72	4.31	69.11
構成比(%)	100.0	1.2	13.0	2.3	25.9	2.1	14.8	2.4	38.3

(資料: 固定資産概要調書)

洞爺湖町の人口

□人口と世帯数の推移(国勢調査)

年次	世帯数	人口			人口密度 (1㎡当り)	1世帯当 りの人員
		総数	男	女		
	世帯	人	人	人	人	人
大14年	1,285	7,202	3,656	3,546	39.9	5.60
昭 5年	1,368	7,831	3,919	3,912	43.4	5.72
10年	1,433	8,558	4,319	4,239	47.4	5.97
15年	1,469	9,030	4,616	4,414	50.0	6.15
20年	2,219	12,112	6,039	6,073	67.1	5.46
25年	2,236	12,800	6,323	6,477	70.9	5.72
30年	2,483	13,764	6,708	7,056	76.2	5.54
35年	3,013	14,920	7,096	7,824	82.6	4.95
40年	3,697	16,243	7,577	8,666	90.0	4.39
45年	4,273	16,187	7,357	8,830	89.7	3.79
50年	4,595	15,496	7,190	8,306	85.5	3.37
55年	4,854	14,401	6,719	7,682	79.8	2.97
60年	4,827	13,749	6,378	7,371	76.2	2.85
平 2年	4,766	13,113	5,997	7,116	72.6	2.75
7年	5,096	12,805	5,897	6,908	70.9	2.51
12年	4,286	10,622	4,976	5,646	58.8	2.48
17年	4,830	11,343	5,266	6,077	62.8	2.35
22年	4,464	10,128			56.1	2.26

* H17年までは合併前の数値(旧虻田町)。

* H22年は合併後(旧虻田町と旧洞爺村)の数値。

* 有珠山の噴火があったのは、S52年とH12年。

(出所) 洞爺湖町役場提供の数値による。

表1 合併後の年齢層別人口の推移

年度	年齢層別人口(人)							計
	0～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	
H17(2005)年度	1,822	1,088	1,151	1,211	1,821	854	3,196	11,143
H18(2006)年度	1,736	1,004	1,088	1,168	1,762	842	3,269	10,869
H19(2007)年度	1,665	964	1,076	1,149	1,689	842	3,286	10,671
H20(2008)年度	1,256	918	1,062	1,133	1,571	886	3,322	10,148
H21(2009)年度	1,518	840	1,050	1,079	1,473	923	3,415	10,298
H22(2010)年度	1,471	779	991	1,068	1,395	975	3,410	10,089
H21年度における比率	14.7%	8.2%	10.2%	10.5%	14.3%	9.0%	33.2%	100.0%
H22年度における比率	14.6%	7.7%	9.8%	10.6%	13.8%	9.7%	33.8%	100.0%
【参考】H21年全国平均	18.1%	11.3%	14.4%	12.9%	13.2%	7.4%	22.7%	100.0%

(注) 2006年(H18年)3月27日、虻田郡虻田町と洞爺村が新設合併して洞爺湖町が設置される。

(出所) 洞爺湖町役場提供の資料による。H21年全国平均のみ、国勢調査に基づく10月1日現在の値。

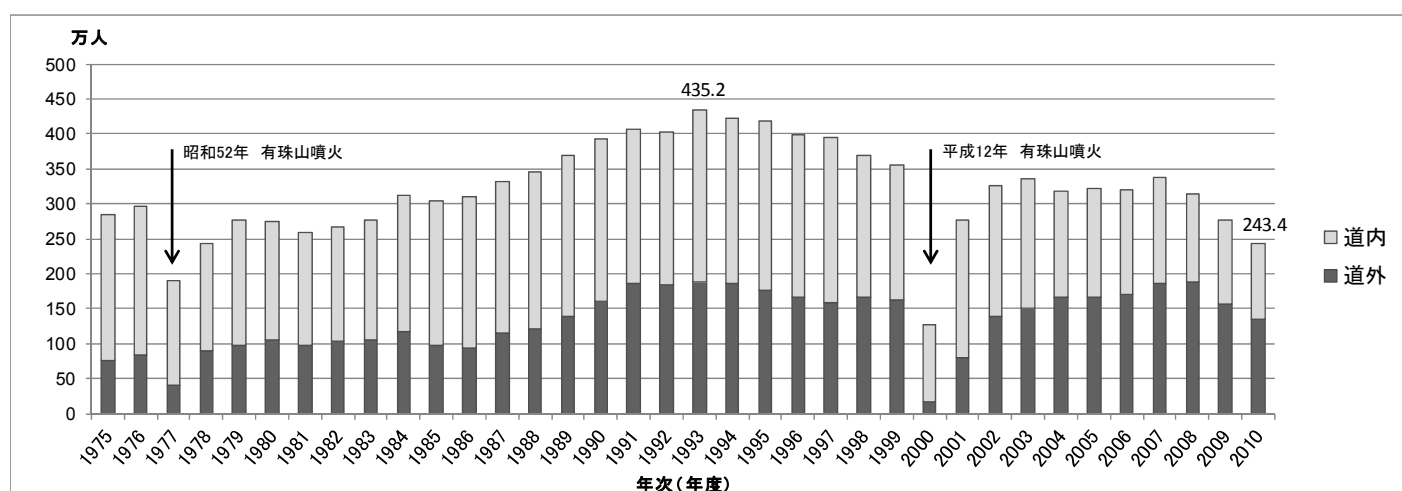


図1 年度別観光客入込み状況(道内・道外別)

(出所) 洞爺湖町役場提供の数値を基に作成。

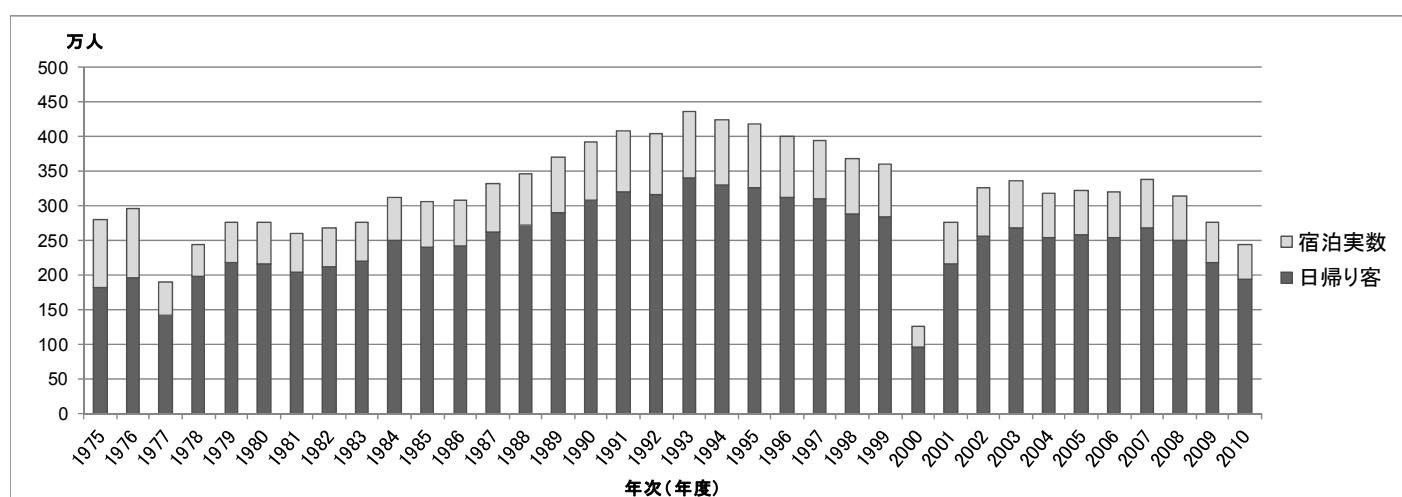


図2 年度別観光客入込み状況(宿泊実数・日帰り客別)

(出所) 洞爺湖町役場提供の数値を基に作成。